

## 山で染めて紡ぐ。

とっても軽くて暖かい、やわらかな色合いの毛糸たち。その毛糸で編まれるセーターたち。  
このコたちは『山染紡』という工房で生まれました。寒い冬を暖かく過ごすために欠かせない毛糸。  
どんな方たちがどんな風に作っているのでしょうか？



奥多摩駅からほど近い、  
氷川小学校の目の前にその工房がありました。  
工房には校庭で遊ぶ子供たちの声が聞こえてきます。  
私たちが訪ねると山染紡のみなさんは笑顔で迎えてくれました。

毛糸たちを作ったのは  
奥多摩のお母さんたちでした。

工房には子育て中、もしくは子育ても終わって一段落、といった年代の女性が11人ほどおられました。  
ここ山染紡は20年前の1987年に作られました。1983年に行われた山村振興事業によって始まっためん羊飼育がきっかけです。特徴ある観光名所づくりとしてジンギスカン料理の食べられるレストハウスを整備し、肉はそこへ、毛は山染紡へといった具合です。羊の毛は毎年5月頃に刈られ、山染紡にやってきます。刈り取られたばかりの原毛はゴミや油で汚れており、こちらではその原毛を丁寧な洗うことから始まります。きれいに洗われた原毛はカーダーという道具で毛の方向を揃えられ、やっと糸を紡げる状態になります。開設当初、メンバーは現在会長を務めておられる島崎ツル子さんを含む5名。  
「当時は何にもわからなかったから、大変でした」といいます。まずは都内へ行って毛糸の紡ぎ方を指南して貰ったそうです。「紡ぎ方を教わってもなかなか上手く紡げないんです。太さを均一に紡げるようになるまではかなりの時間がかかりました。最初は太かったり細かったり・・・今はそういう毛糸も味のある商品としてお店で売ってますけどね。」逆に今は巧くなって太さが均等なので山染紡の毛糸はつまらない、なんていう声をきくこともあるんだそう！